

『藍染の風呂敷』

千葉県立柏中央高等学校

工芸担当 川名 圭樹

■ 題材について

工芸Ⅰ・Ⅱを通じて制作する食膳セット※のうち、器やカトラリー、お盆をひとつにまとめる風呂敷として、あるいは食事の際に敷くランチョンマットとして使用することを想定している。

風呂敷は540×540mmの小型のものを使用。風呂敷の四隅には家紋を、中央には自分の名前を図案化したオリジナルの紋(私紋)を防染処理し、藍染で染め上げる。

※食膳セットの概要については、大会冊子をご参照ください。

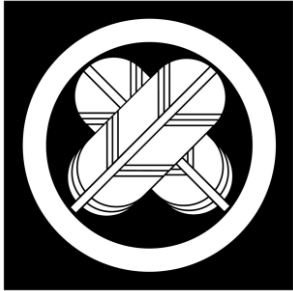

■ 授業で付けたい力

授業で つけたい力	『伝統文化への理解と関心』	『発想・構成・表現する力』	『想像・思考・判断する力』
キーワード	「藍染文化」「日本の紋様」 「家紋」「伝統的造形表現」	「私紋」	「適合化」※
関連する 学習活動	DVD鑑賞 制作説明理解 家紋の型紙制作	私紋のアイデア構想 アイデアの図案化	図案(家紋・私紋)の適合化※ ※型紙制作の制約や条件に 適した形に図案を調整する。
観 点	【 関心・意欲・態度 】	【 発想や構想の能力 】	【 創造的な技能 】

■ 授業展開の概要

1学期 全10回(20H)

	段 階	時 間	学 習 内 容
1	導入	2h	DVD鑑賞／課題説明／型染めの基礎知識／家紋選び
2	家紋型紙制作	3h	図案の適合化／転写／彫り
3	私紋型紙制作	5h	アイデアスケッチ／図案化／図案の適合化／転写／彫り
4	紗張り／型紙補修等	4h	紗張り／ツリ取り／型紙補修／生地アイロン掛け
5	糊置き	4h	糊置き／糊の補修／DVD鑑賞
6	染め	2h	染め

段 階	学 習 内 容 と 指 導 の 工 夫 ・ 注 意 点 等
準備	<p>《家紋の準備とその背景》</p> <p>家紋はインターネット上の家紋画像サイト※で公開されている画像から100種選びダウンロードする。その画像をプリントアウトしたものを掲示し、生徒はそこから制作する家紋を選ぶ方法をとっている。生徒それぞれが選んだ家紋の図版のコピーを各自に配布。生徒はそれをもとに家紋の型紙を制作する。</p> <p>当初は生徒自身の家の家紋を制作させる事を考えたが、自分の家の家紋を調べるのが困難な生徒も多く、また調べてきた家紋の画像を用意することができないケースもある。さらに調べてきた家紋が、型紙制作を学習するうえで“簡単すぎる”あるいは“難しすぎる”ケースも多くあり、授業評価の観点からも難しい。これらのことから、「家紋らしさ」「多様性」「難易度の幅」等を助案し、こちらから制作する家紋を用意する形をとっている。ただし、自分の家の家紋を希望する生徒には相談に応じ、できるだけ制作させている。</p> <p>※家紋百景ライブラリ http://aal.msis-net.com/kamon/lib/index.htm</p> <p>《渋紙の準備》</p> <p>渋紙のサイズ(545×910mm)、風呂敷のサイズ(540×540mm)、家紋と私紋の配置から、制作する型紙のサイズを180×180mmとしている。そこから家紋が120×120mm、私紋が100×100mmに納まるサイズで制作するよう課題を設定している。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>
導入	<p>①DVD 鑑賞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○藍染の歴史／藍の特性藍の魅力／藍建ての風景／絵あそび「かまわぬ」「菊五郎格子」等／吉祥紋 ●絵あそびの部分は私紋のアイデアのヒントにもなるので特に注目させる。 □教材「美の壺-『藍染め』」-NHK エデュケーショナル T0BW-3343 <p>②課題説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ○制作工程の概要・条件等の説明 ●前年度の参考作品を見せながら、作品イメージを持たせる。 ◇プリント「藍染の風呂敷をつくる」 <p>③型染めの基礎知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ○型染めの基本的な仕組み、型紙づくりから染めまでの工程を説明。 ○型紙の「ツリ」についての説明※ ◇プリント「型染めの基礎知識及び各作業工程について」「ツリについて」 <p>④家紋選び</p> <ul style="list-style-type: none"> ○好きな家紋を選び、選んだ家紋番号を生徒名票に記入する。 ●「適合化」作業に軽く触れ、生徒が尻込みせず気に入ったモノを選べるようアドバイスする。 ●生徒が選んだ図版のコピーを次回の授業まで用意する。

①図案の適合化

適合化とは？ ★この課題の大きなポイントのひとつ

同じ図案でも、それをコンピュータで描くのか、絵筆で描くのか、切り絵で表すのか、その表現方法や物理的条件によって図案を部分的に修正・調整する必要が生まれる。生徒に配布する家紋の図版はコンピュータで描かれたものであるため、この図版を型紙(切り絵)の物理的条件や技術的制約を考慮に入れながら、**型紙として表すのに適したかたちに直す必要がある**。この作業を「適合化」と呼んでいる。

1-④の家紋選びの際には適合化作業を軽く予告し「この家紋、好きだけど細かすぎて失敗しそう」と尻込みしてしまう生徒には「自分で彫れるかたちにアレンジするから大丈夫！」などのアドバイスをするなど、できるだけ気に入ったものにチャレンジしやすいようにしている。

適合化の例

- ◇ツリをつけ、黒い部分(紙部分)を全てつなげる。
- ◇紙がピラピラと不安定になる場所にもツリをつけて安定させる。
- ◇紙の残る部分(黒い部分)の線は太くし、細い(弱い)箇所をなくす。
- ◇線を太くしたことで、白黒のバランスが悪くなる場合は線を間引く。
- ◇制作が困難な場合は図版の印象を大きく損なわない程度に線を引き直すなどのアレンジをしてみよう。



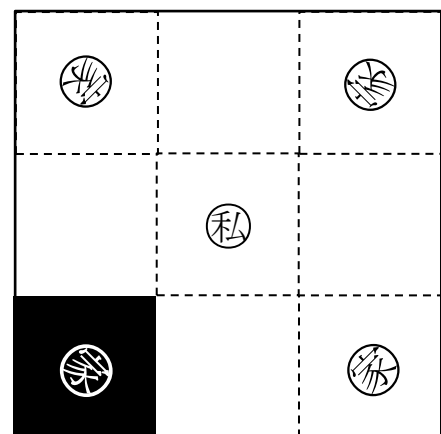
●「切る線＝白と黒の境目」の原則を確認させる。

切る線＝渋紙に転写する線＝「白と黒の境目」であることを説明。それ以外を切ると失敗する。

②転写

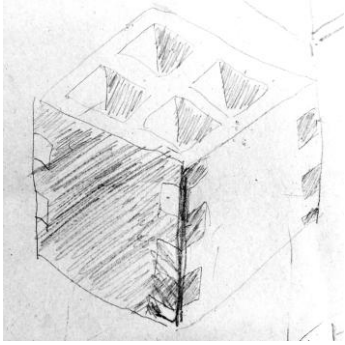
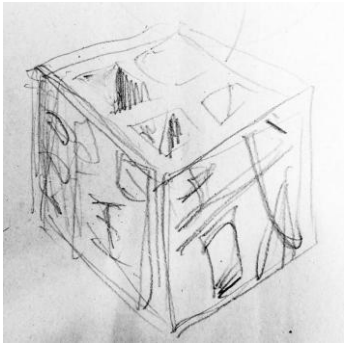
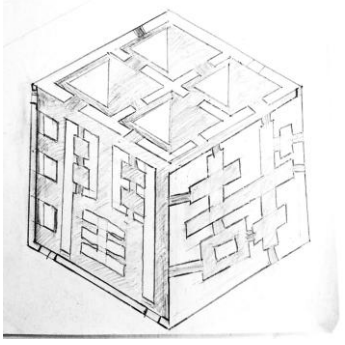
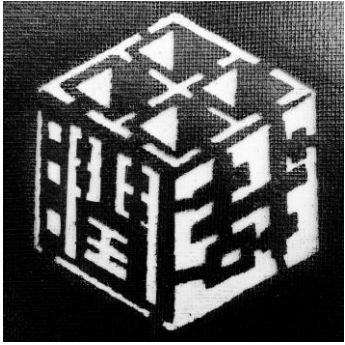
- 適合化が終了した家紋のコピー図版を渋紙に重ね、カーボン紙を挟んで転写する。
- 家紋は渋紙中央に**斜め45度傾けて**配置する。※(家紋の上下左右が渋紙の4つの角に向く)







- 風呂敷の角の位置に家紋を配置する場合、モノを包んだ時に家紋が正位置で見えるように、家紋の上方向を風呂敷の中心に向けることが望ましい。生徒にもそうした使い勝手も考慮した家紋の向きの配置を勧めている(強制はしていない)。
- 糊置きの際に、家紋の向きによく注意して型紙を置き据えればよいことだが、風呂敷の角と型紙の角を合わせれば簡単に中心向きの配置ができるように45度斜めに配置し転写をさせている。



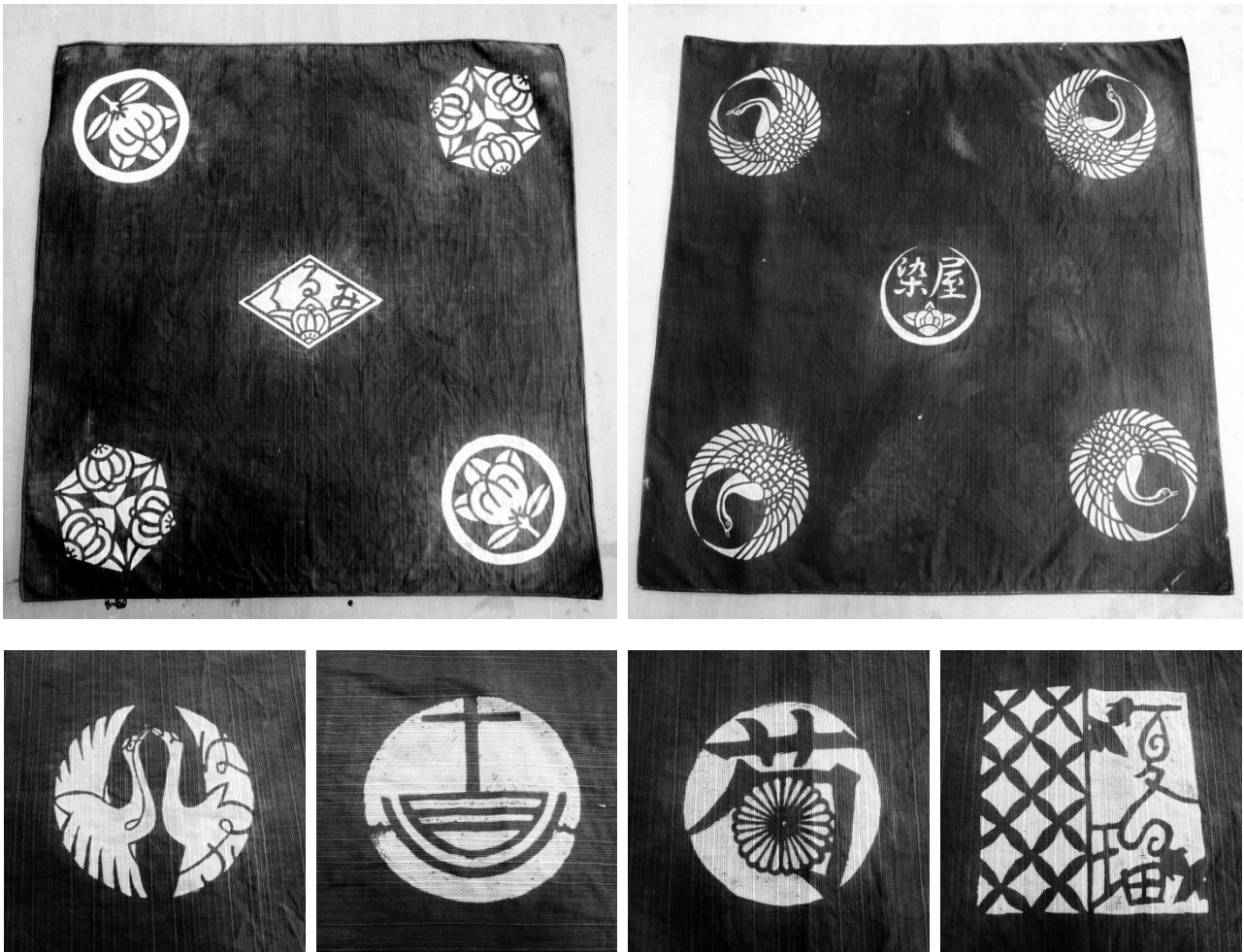
↑角を合わせれば家紋が中心を向くよ！

- 「切る線」は「白と黒の境目」の原則を再度確認し、切る線のみを全て転写させる。
- 描いた場所がわかるように、転写には赤や青などの色ボールペンを使用させる。

	<p>③彫り</p> <ul style="list-style-type: none"> ○デザインカッターを使用し、紋様の中央部から彫りはじめる。 ●外側から彫りはじめた場合、中央部に手を入れる際に、紙が不安定になりちぎれることもある。 	
<p>型紙制作2 「私紋」</p>	<p>①アイデアスケッチ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○名前をモチーフにした紋様のアイデアスケッチ。 ※藍染作品は作品に記名することができないので、生徒の記名の替わりとして私紋がある。全く名前を判読できない、読み取れない、名前と関係がない、などは不可。また、日本の伝統的な造形表現の観点からアルファベットも不可としている。 ●個別アドバイス(名前の音や漢字の特長、部活動、家紋との調和などから)。 ●アイデア出しがどうしても苦手な生徒には、ネタをあげるなど柔軟に対応。 ○アイデアを絞り、黒と白の分割を考える。 	<p>M君の作品プロセス</p> 
<p>②図案化</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本のアイデアが決まったら、指定のサイズで下描きする。 ○黒と白に塗り分け、ツリが必要な場合はツリを描きこむ。 ●配置のバランスや型紙を安定させる工夫などをアドバイスする。 ●物理的に矛盾がないかチェックする。 		
<p>③図案の適合化 ※②の図案化と同時進行的に進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○家紋の適合化(2-①)と同様に型紙(切り絵)として無理のないかたちに調整する。 ●カッターの操作感や渋紙の抵抗感など、家紋の型紙彫りでの経験を思い出すよう促す。 ●余計な線(切ってはいけない線)を消させ、最終的にチェックする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>「私紋」のデザインについて</p> <p>私紋の案を考えるような作業に対して「デザインする」という言葉を一般に使いがちだが、「デザイン」という言葉の安易な使用は避けるよう注意している。アイデアを出すだけでなく、それを様々な条件(物理的・技術的等)に対して適合したかたちに調整し洗練させていくプロセスも含めてデザインの仕事と考えるべきであり、本題材の場合においては、適合化の作業を終えて「私紋をデザインした」ことになる。</p> </div>		
<p>④転写</p> <ul style="list-style-type: none"> ●家紋と同様に進める。 ※私紋は渋紙への配置は45度斜めにする必要はなし。 		
<p>⑤彫り</p> <ul style="list-style-type: none"> ●家紋と同様に進める。 		

<p>紗張り等</p>	<p>①紗張り</p> <ul style="list-style-type: none"> ●説明／映像機器を使用したデモンストレーション ○型紙の表側から紗を重ね、水性工芸うるし(ワシン)※で貼り付けていく。 ○穴の開いた部分に目詰まりしたうるしを拭き取り乾燥させる。 ※水性工芸うるしの使用について <p>紗張りをする際には一般にカシューが多く用いられるが、カシューに比べ臭いがなく、後片付けも簡単な水性工芸うるしを使用している。乾燥が早く、型紙2枚目の紗張りが終わったころには、1枚目の表面は乾燥しており、目詰まりを楊枝で綺麗にするなどの作業が行える。ただし、乾燥が早すぎるため、塗っている間に目詰まりが乾燥してしまい拭き残しができてしまう、敷いている新聞紙が張り付きやすいなどのデメリットもあり、使用方法について今後も研究が必要。</p>	
	<p>②ツリ取り</p> <ul style="list-style-type: none"> ○裏から紗を傷つけず渋紙だけを切り剥がす。 ●説明／映像機器を使用したデモンストレーション ※ICT機器を使用し、大きく拡大して見せる。 	
	<p>③型紙補修</p> <ul style="list-style-type: none"> ○剥がれ箇所修正／紗と渋紙が剥がれてしまっているところ、うるしの塗膜が薄くて心配なところを、細い筆でうるしを塗り補修する。 ○目詰まりを楊枝で綺麗に取る。 	
	<p>④生地アイロンがけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○風呂敷生地をアイロンがけし折り皺をとる。一人一枚。 ●生地には記名できないので、自分がアイロンがけた生地は自分のものではない→丁寧に作業させる。 	
<p>糊置き</p>	<p>①糊置き</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1週目は家紋2か所と私紋(計3か所) ※授業時間と保管場所の都合による ○2週目は家紋2か所実施+糊補修 ●5人に糊置き場(用具)を1か所の目安で準備する。(30人クラス/6か所) ●2~3人グループで手伝いをしながら進めるよう指示する。 ●デモンストレーションして説明。注意点、ヘラの動かし方のコツなど丁寧に。 ●うまく糊が乗らなかった箇所は次回ゆるく溶いた糊を筆置きで補修する。 	
<p>※鑑賞 余った時間</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●DVD 鑑賞 教材「美の壺『江戸の紋様』」 ○江戸の紋様の特長/洒落の紋様/小紋 糊置きの様子や型紙の魅力について学ぶ 	
<p>染め</p>	<p>①染め</p> <ul style="list-style-type: none"> ○2分間染め、発色剤を通して発色させる。 ○糊と余分な染液を洗い流して干す。 <p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業全体を振り返り、藍染の面白さや難しさについて感想や意見を交換する。 	 

■ 作品



■ おわりに

この題材は、藍染の魅力を生徒に伝えたい、藍染や染色の文化への理解や関心を深めてほしいと考え、すでに授業で型染めを実践されている先生から学んだノウハウに、自分の色を加えてアレンジし題材を設計している。

この題材に限らず、題材の設計においては、学習や体験が一度きり(失敗したら失敗したきり)という形は避けたいと考えている。一つの単元の内、あるいは連続する異なる単元間においても、前に学んだこと、失敗したこと、やりながら発見したことを振り返り、応用や再試行、再チャレンジさせることで、より深い理解や技能の定着を図っている。その際、単元を跨ぐ場合はもちろん、同一単元内においても、学習の単純な繰り返しにならないよう、新しい学習要素を加えるなど内容を工夫している。この題材でも「家紋」の型紙制作で適合化や型彫りのプロセス等を学び、その学びを活かして「私紋」のデザイン及び型紙制作に取り組むことで型紙制作の理解の定着を図ると同時に、紋様表現を通じた創造力の伸長もねらいとしている。

「藍染の文化を知る」「家紋文化に触れる」「遊び心の紋様文化を知る」「紋様を考案する」「型紙をとおして柿渋や漆について学ぶ」「型彫りの制約を理解し、図案を適したかたちになおす」「型紙を用いて布に糊を綺麗に置く」「染める」など、生徒はこの題材を通じて多くのことを知り、考え、学び、あるいは仕事の難しさや大変さを肌で感じる。こうした学習経験をとおして、生徒に人間的な成長を期待するのはもちろん、さらに言えば、工芸や職人の仕事を尊び敬う気持ちを育て、将来的に藍染や型染め等に親しみ愛好し、工芸業界を消費の面から支える人材に育ててほしいという思いも込め授業行っている。